

かながわ資料ニューズレター

～ 催しもののご案内 ～

◆ 県立図書館・県立公文書館合同展示「改元漫遊」

○ 期間：平成 31 年 2 月 1 日(金)～3 月 31 日(日)

※ 場所：神奈川県立公文書館閲覧室内

◆ 神奈川資料ミニ展示「改元漫遊」Part1&Part2

○ 期間：平成 31 年 4 月 12 日(金)～6 月 12 日(水)

※ 場所：新館 3 階エレベーターホール

◎ 内容は、県立図書館・県立公文書館合同展示のうち、公文書館が担当した部分を展示します。



県立図書館・県立公文書館合同展示「改元漫遊」における「改元に寄せて～御用邸から見た天皇と神奈川の関わり」の様子

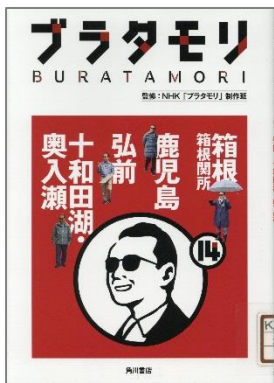


新着資料から

◆ 『ブラタモリ 14 箱根 箱根関所 鹿児島 弘前 十和田湖・奥入瀬』

NHK「ブラタモリ」制作班 監修 KADOKAWA 2018 年 [K291.85/378]

本書は、NHKの紀行番組「ブラタモリ」の放送内容を書籍化したもので、番組では語られなかったエピソードも収録しています。今回は平成 29 年(2017)4 月 22 日放送の「箱根」と、同年 5 月 13 日放送の「箱根関所」が収録されました。「箱根」の回では、神奈川県温泉地学研究所主任研究員の万年一剛氏が案内人を務めており、箱根の火山や温泉の成り立ち、泉質の豊かさなどについて解説しています。中でも人間が作り出す「蒸気井温泉」の仕組みには驚かされます。また、万年氏は「箱根関所」の回にも出演しており、関所がある場所の地形について説明を行いました。県立図書館では昨年(2018)の 5 月 19 日に、万年氏を講師にお迎えして神奈川探訪講座「かながわと温泉～箱根を中心に」を開催しています。講座では、神奈川県温泉地学研究所の概要や、温泉の定義についても述べられました。詳細は、下記アドレスの「司書の出番」をご覧ください。<http://www.klnet.pref.kanagawa.jp/recommend/?p=6136>



◆ 『富士屋ホテルの営繕さん 建築の守り人 FUJIYA HOTEL MAINTENANCE AND REPAIR LIXIL BOOKLET LIXIL GALLERY』

白石ちえこ 撮影 山口由美著 吉田綱市著 LIXIL 出版 2018 年 [K52.85/18]

冒頭の説明によると「営繕」とは、営造の「営」と修繕の「繕」からなる熟語です。ここでは、単なる修理屋ではなく、その場の機能とイメージに合わせて新しい物を作り出す職人を指しています。

富士屋ホテルは、山口仙之助が 500 年の歴史を持つ箱根・宮ノ下の旅館「藤屋」を買収して改装し、明治 11 年(1878)に日本初の本格的なリゾートホテルとして開業しました。その建築様式は洋風と和風の共存・衝突する複雑なものであり、唐破風の玄関がある洋風建築の本館、伝統的な和風建築の食堂棟、外国人専用の宿泊施設であった西洋館、洋室に和風の装飾が凝らされた「花御殿」、旧御用邸の「菊華荘」などがあります。営繕はこれらの様式と伝統を損なうことなく、補修と増改築を繰り返してきました。本書はそんな営繕たちの仕事を豊富な写真とともに紹介しています。





新着の神奈川資料

新着資料の一部をご紹介します。

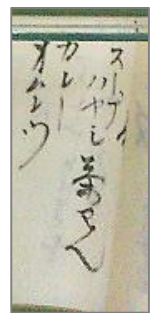
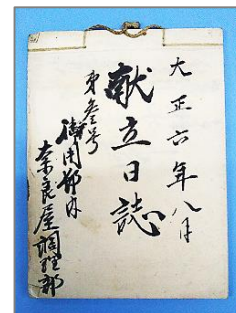
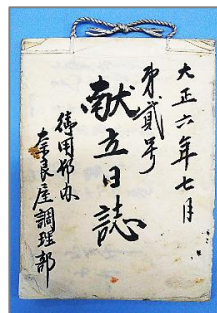
タイトル	著者名	出版者	出版年	請求記号
苔に光る鎌倉の石仏 大箭晃義・写真集 銀鈴叢書	大箭晃義 写真・文	銀の鈴社	2018	K18.4/369
封印された殉教 下	佐々木宏人著	フリープレス	2018	K19.1/204/2
「伊勢原の開村」を探る 伊勢原の郷土史再発見!	田中米昭著	夢工房	2018	K21.64/20
新訂吾妻鏡 3 頼朝将軍記 3 文治四年 1188～建久二年 1191	高橋秀樹編	和泉書院	2018	K24/497/3
鎌倉幕府成立期の東国武士団	金澤正大著	岩田書院	2018	K24/537
ぷらべん 88歳の星空案内人河原郁夫	富岡一成著	旬報社	2018	K28/499
enjoy ist。かながわ 毎日を楽しむためのヒント バリアフリー情報マガジン	enjoy ist。かながわ制作委員会著	ジアース教育新社	2018	K36/1243

《うちのおたから自慢》

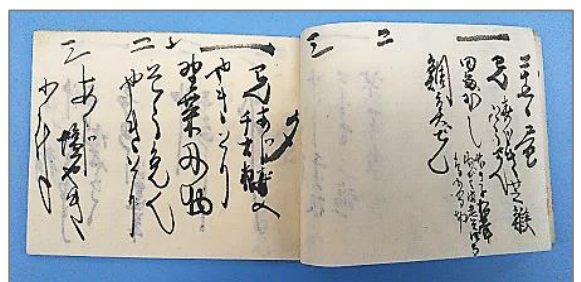
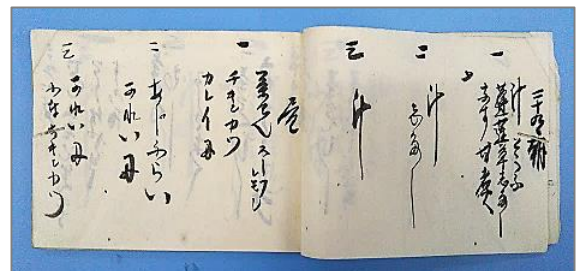
「献立日誌 第2号, 第3号」

箱根御用邸内奈良屋調理部 1917年

[K59.85/12/2, 3]



明治天皇・昭憲皇太后は、明治6年(1873)に避暑の目的で箱根に行幸啓し、宮ノ下の奈良屋旅館に滞在しています。奈良屋は、創業が元禄15年(1702)ともいわれる老舗旅館でしたが、平成13年(2001)に閉館しました。皇太后は明治5年(1872)と明治9年(1876)にも奈良屋に滞在しています。宮ノ下御用邸は、明治天皇皇女 富美宮允子内親王の避暑のために建てられましたが、一説には、奈良屋への度々の行幸が、営業の妨げになることを皇太后が案じたため、ともいわれています。御用邸の建設は、明治27年(1894)に宮内省が民有地約2,182坪を買収し、翌年2月に着工、半年後に完成させました。御殿は約350坪で「和風木造平屋建一部二階建」となっています。昭和天皇も皇太子の頃、大正3～11年(1914～1922)に度々、滞在しました。大正12年(1923)の関東大震災で大きな被害を受けますが、建物は修理されました。昭和8年(1933)に御用邸は廃止され、翌年、高松宮家へ譲渡されます。昭和21年(1946)には富士屋ホテルに払い下げられ、別館「菊華荘」となっています。



本資料は、表紙に「御用邸内奈良屋調理部」とあることから、皇族と縁の深い奈良屋の調理部が、御用邸に入っていたことが窺えます。献立は、「朝」に「汁」「やきとうふ」「やきのり」、「昼」に「チキンカツ」「あじふらい」「カレー」「オムレツ」「ローズヤキ」、「夕」に「きす」「海老」「やきとり」「そうめん」などを読み取ることができます。3月31日まで県立公文書館で展示しています。

【参考文献】

- 『我が皇室と箱根』足柄下郡初等教育研究会第四部会編 足柄下郡初等教育研究会 [1935]年[請求記号: K28.85/32]
- 『開けゆく別荘地 箱根』箱根町立郷土資料館 1996年[請求記号: K68.85/117]
- 「箱根『奈良屋旅館』300年の歴史に幕、に惜しむ声」横川節子著 『週刊エコノミスト』第79巻第25号(通巻3510号)2001年6月12日号 p.100～p.102 毎日新聞社[請求記号: Z330.5/5]

タイトル	著者名	出版者	出版年	請求記号
鎌倉資本主義 ジブングトとしてまちをつくると いうこと A Manifesto for Sustainable Capitalism	柳澤大輔著	プレジデント 社	2018	K60.4/12
京浜急行電鉄 名車の軌跡 イカロスMOOK		イカロス出版	2018	K68/620
京急電鉄のすべて 鉄道まるわかり 001	「旅と鉄道」編集部編	天夢人	2018	K68/621
江ノ電沿線の近現代史 CPCリブレ No. 8 エコする〈知〉	大矢悠三子著	クロスカルチ ャー出版	2018	K68.4/62
近代横浜の輸出陶磁器 日本文化を絵付け の技で伝えた人々 Modern Yokohama's Exported China and Potteries	近藤裕美著	里文出版	2018	K75.1/45
ベ이스ターズファン解体新書 下剋上のラミレ ス	須賀達郎著 友兼まこ と著 村松大二朗 画	TOボックス	2018	K78.1/206

📷 かながわ・フォーカス

【神奈川の祭り ～昭和の記録写真から～】

《大山夏山開き》…伊勢原市（大山阿夫利神社）



◆写真撮影日：昭和40年（1965）7月27日 [請求記号：K55]

現在の大山は、真冬でもスタンプラリーが行われるなど、一年中山頂を目指すことができます。しかし江戸時代には、旧暦の6月27日～7月17日の開山期以外は、不動堂（現在の下社の位置にあった昔の大山寺）より上へ登ることは禁じられていました。こうした伝統を受け継いで、現在でも大山では7月に開山の儀式が行われます。7月27日～8月17日の夏季例大祭は、通称「夏山」と呼ばれ、阿夫利神社下社から山頂へ向かう石段の入口にある登拝門が開かれます。7月27日に東京日本橋小伝馬町の「お花講」が、登拝門の扉を開ける儀式を行ないます。撮影当時は未明に行われていましたが、現在は朝の8時半に行われます。お花講は大山講の一つで、結成は元禄元年（1688）以前といわれ、日本橋の間屋の旦那衆をはじめ職人が中心だったといえます。毎年大山寺に牡丹の造花を献じることから、この名で呼ばれています。



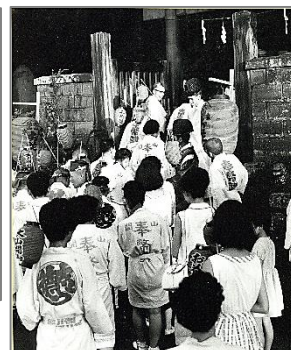
【写真1】先導師の宿坊に泊った講員たちは午前1時頃、出発した。



【写真2】提灯の明かりを頼りに「さんげ、さんげ、六根清浄」と唱えながら下社まで登る。



【写真3】お花講は明治になって、神道的な名称の「奉幣講」に改めたが昭和38年（1963）頃、旧名に復した。



【写真4】登拝門の前で神事が行われた後、講の人々が扉を開ける。

【参考文献】

- ・『伊勢原市史 別編 民俗』伊勢原市史編集委員会編 伊勢原市 1997年[請求記号：K21.64/7/3-1]
- ・『伊勢原市史民俗調査報告書 3 伊勢原の民俗－大山地区－』伊勢原市史編集委員会編 伊勢原市 1990年[請求記号：K38.64/5/3]

《かながわ資料／新聞・雑誌室 利用のご案内》

当室では、神奈川県に関する資料や調査のしかたに関するご相談をお受けしています。
来館もしくは電話・FAX・Eメール・手紙などでお気軽にご相談ください。

※Eメールの場合はホームページからお申し込みください。

○開館時間：火曜～金曜日 午前9時～午後7時／土曜・日曜・祝日 午前9時～午後5時

○休館日：毎週月曜日（国民の祝日に当たる場合は開館）・毎月第2木曜日・年末年始等

◎個人への館外貸出は行っていません。著作権法に基づく複写サービスを行っております。

資料によっては、郵送による複写物の送付もできます（有料）。詳細はお問い合わせください。

～ 催しもののご案内 ～

雑誌創刊号コレクション展示

◆「つり～釣り～Fishing『釣り雑誌の変遷』」

○期間：平成30年12月14日(金)～平成31年4月10日(水)

※場所：新館3階エレベーターホール



JR・市営地下鉄線

「桜木町駅」より徒歩10分

京浜急行線

「日ノ出町駅」より徒歩13分

みなとみらい線

「みなとみらい駅」より徒歩20分

横浜市営バス

103系統(横浜駅東口始発)

「戸部1丁目」下車徒歩5分

「桜木町駅前」経由の系統(横浜駅東口始発)

「紅葉坂」下車 徒歩7分

駐車場(有料)

普通車(1台)30分 200円

(最初の15分無料)

神奈川県立図書館 かながわ資料ニュースレター 第68号

平成31年(2019)2月27日 発行

神奈川県立図書館 企画サービス部地域情報課

〒220-8585 横浜市西区紅葉ヶ丘9-2

電話 045-263-5904 (かながわ資料/新聞・雑誌室直通)

FAX 045-241-0985

ホームページ <http://www.klnet.pref.kanagawa.jp/>

※「かながわ資料ニュースレター」は当館ホームページでもご覧いただけます。

神奈川県立図書館

